

映像・講演・クロストークシンポジウム 『潟と人の共存する未来』

主催：新潟と会



シンポジウム



失われた鎧潟から学び、これからの自然との新しい関係を考える

潟をはじめとする自然と人とのこれからの共存の在り方について、過去と今から考えるシンポジウムを実施。新潟は、人と潟が共存してきた。だが、多くの恩恵を得てきた「鎧潟」も高度成長時代に干拓され、水田になってしまった。今後の日本は、人間活動が急拡大する時代ではなく、人口が減少する時代になる。そんな時、人が再び自然と共生するにはどうすれば良いか、特に新潟では潟や川との関係の見直しが問われている。潟との共存の在り方を多様な対話から見直すことによって、自然とのこれからの関わり方を提示し新潟により良い未来をもたらすこと、映像記録を上映するという手法によって、失われつつある潟に関する地域の記憶を後代に引き継ぐこと、将来の子供達に自然と向き合う良好な環境を残すことを目標とし、繋げていきたいと考える。

シンポジウムでは、かつて人と共に在った潟「鎧潟」

の記憶と残された写真などの記録を辿り、潟東歴史民俗資料館と連携し映像化して、その在り方を探るとともに、イギリスの湿地帯ブローズを訪ねた野垣成恵氏、水辺と人の在り方を長年模索してきた大熊孝新潟大学名誉教授(土木工学)にお話をいただき、その後、意見を交流する公開ディスカッションを行った。また、詩集『鎧潟』の数編を、作者である国見修二氏に朗読していただいた。

当日は、準備していた席以上の参加があり、鎧潟をはじめとする「潟」が大きな存在であったことを感じた。自然を人の利益という観点からのみ考えてきた時代の変化の兆しと、「自然との新しい関係」への新潟の人々の潜在的な関心の高さを感じることができた。

『潟と人の共存する未来』について考えるきっかけをつくり、潟の文化・歴史の継承に寄与できたのではないかと思う。

●8月18日(土) シンポジウム『潟と人の共存する未来』 (新潟県農業大学校交流ホール)